

伊達市地域公共交通活性化協議会

令和2年7月20日設置



概要

本市は、北海道の中央南西部、噴火湾に面し、札幌市と函館市の間に位置する総面積444.21 km²の都市である。第7次伊達市総合計画において、「自家用車が無くても気軽に自由に移動できるまち」を目指すべき姿として位置付けており、いわゆる高齢者をはじめとする交通弱者などが、安心・安全におでかけできる公共交通網を構築していくことが求められている。こうした社会の実現のため、伊達市が抱える地域公共交通の課題と市民のニーズを明確にし、改善に向けて公共交通事業者を含め市全体が一体的に取り組むことができるよう、地域公共交通活性化協議会において検討を進めている。

○地域公共交通の現況

- ・JR室蘭本線(黄金駅、稀府駅、北舟岡駅、伊達紋別駅、長和駅、有珠駅)
- ・道南バス(株)(全11路線)
- ・スクールバス(3路線)
- ・(株)伊達ハイヤー、光星タクシー(有)
- ・愛のリタクシー(伊達商工会議所)

○地域公共交通の課題

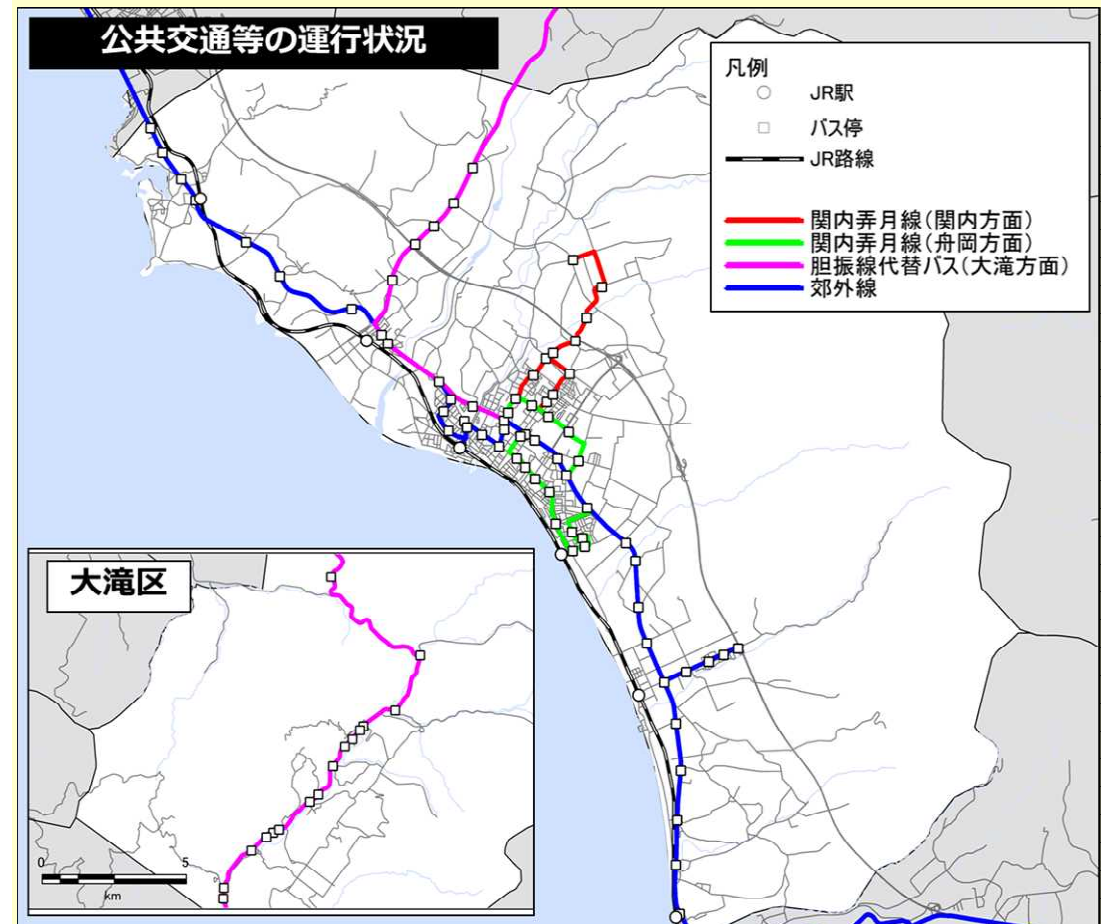
- ・郊外部の公共交通空白地の存在
- ・今後予定されている高校の統合が及ぼす既存路線への影響
- ・胆振線代替バスの収益率の低迷
- ・北海道新幹線の札幌延伸が及ぼすJR室蘭本線への影響

○調査の主な内容

- ・公共交通に関するアンケート調査
市民の生活行動(通勤・通学、買い物、通院、その他私用)の実態や公共交通に対するニーズを把握
- ・シンポジウム
市民の公共交通に対する意識の醸成を図る

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 令和2年7月20日 第1回協議会を開催
- ・主な協議事項 「伊達市地域公共交通活性化協議会財務規程について」
「伊達市地域公共交通活性化協議会事務局規程について」
「令和2年度予算案について」
「計画策定支援業務委託の進め方について」



伊達市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

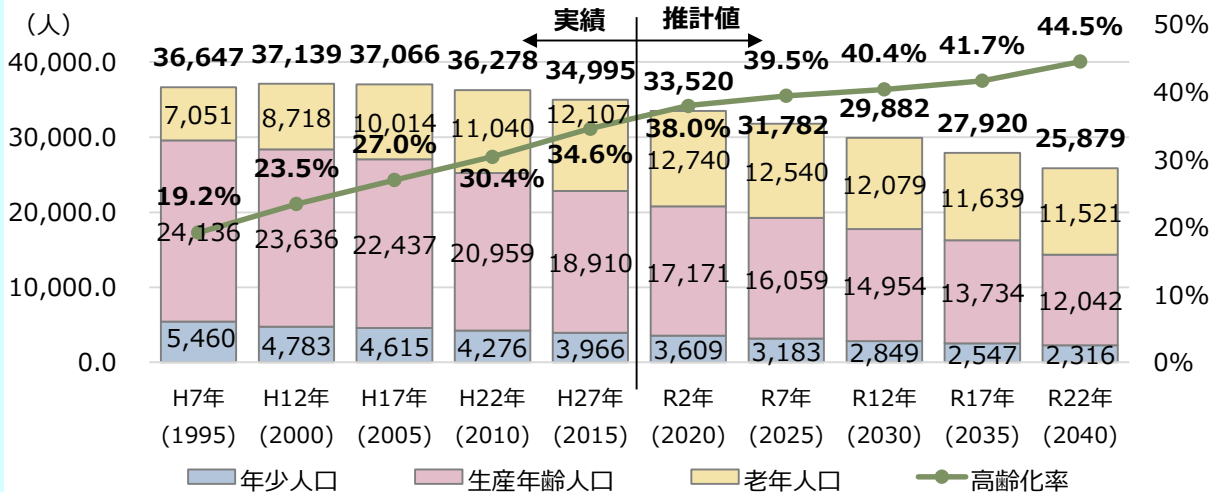
●事業の結果概要

【事業内容】本市における地域概況の整理

- 伊達市の人口は概ね横ばいで推移していたが、2015年には35,000人を下回り、2040年には26,000人を下回り、高齢化率は約45%と予想されている。
- 市内の通勤・通学者（17,446人）のうち4,275人が市外に移動している。また、他都市との流動は、室蘭市・洞爺湖町とのつながりが強くなっている。
- バスの移動実態は、中央地区と長和地区・稀府地区などの中央地区を中心とする移動に多く使われているほか、東地区の内々でも利用されている（中央地区を中心とする動きは全手段でも同じ傾向である）
- バスの移動実態は、室蘭市・壮瞥町等とのつながりが強い状況となっている。
- 公共交通のカバー圏を分析した結果、市街地は概ねカバーしているものの、全体ではカバー率約71%となっており、特に郊外部の人口カバー率が低い状況である。

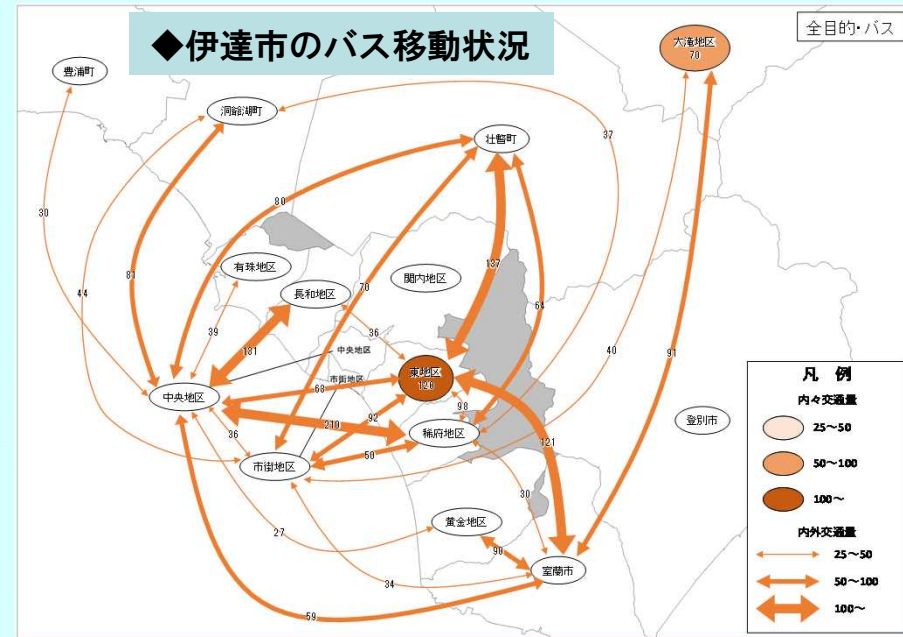
- 郊外部では高齢化が進行しており、伊達商工会議所が運行している愛のりタクシーは60歳以上を対象としており、利用促進の強化による有効活用が期待される
- また、現在伊達市ではタクシーの割引サービスを試験運用中であり、このような取組の検討・推進が必要と考えられる
- 大滝地区は伊達市街地との移動が不便であり、検討が必要である

◆伊達市の人口の推移



資料：実績値は国勢調査、推計値は国立社会保障・人口問題研究所

◆伊達市のバス移動状況



資料：平成28年度 室蘭都市圏パーソントリップ調査

◆ワークショップの開催



伊達市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【事業内容】・公共交通に関するアンケート調査の実施

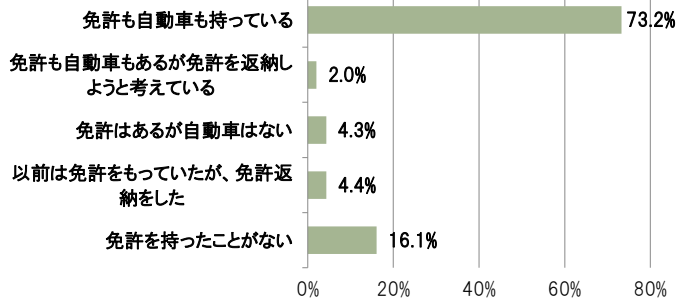
【基本情報】

- ・調査対象：市内在中の16歳以上の3,000人を無作為抽出
- ・調査方法：伊達市発着の郵送配布・郵送回収
- ・配布日：令和3年1月15日（金）
- ・回収数：1,531票（回収率：51.0%）

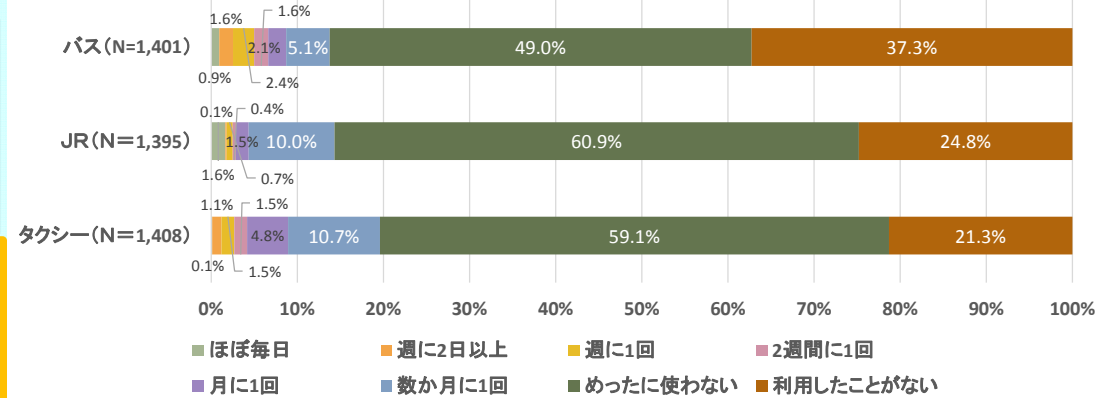
【調査結果の概要】

- ・運転免許保有者が約80%となっており、うち約40%が出来る限りずっと運転したいと回答しており、**事故リスクの高まりが懸念**される
- ・運転が困難になった場合の移動手段として、徒歩や自転車と回答しており、これらの属性の買い物帰りや冬期の対応など、**公共交通による移動手段の検討**が必要であり、**健康増進と両輪で推進**が求められる
- ・バスの利用頻度や認知度が低い状況となっており、**バスを乗ってもらい、知ってもらい取り組みが必要**と考えられる（今年度、公共交通に係る市民ワークショップを実施した結果、バスについて考えるようになった、継続的に自分たちで考える必要があるとの意見が多かった）
- ・一方、現時点で公共交通の必要性については、低い状況であり、「将来的に必要」とする回答が多くなっており、**将来の高齢社会の進行を見据えた「車に依らないあるいてくらせるまちづくり」の推進**が必要と考えられる
- ・将来に残して欲しい公共交通の意向を調査した結果、JRと路線バスが高くなってきているものの、高齢者は愛のりタクシーの存続を求めており、**愛のりタクシーの仕組みの改善などによる利便増進やPR等による利用促進**を図る必要がある（ワークショップにおいても愛のりタクシーの有効利用を望む声が多い結果となった）

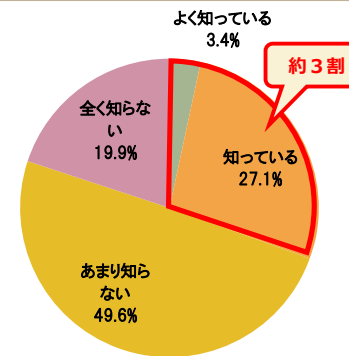
免許・自動車の保有状況 (N=1,439)



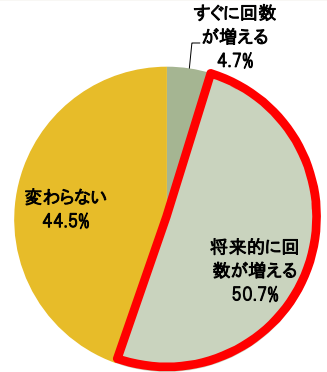
公共交通の利用頻度



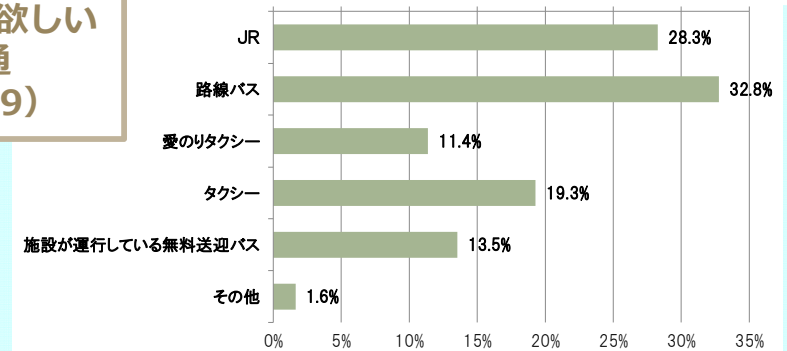
バスサービスの認知度 (N=1,416)



困っていることが解消した場合の利用頻度の変化 (N=1,293)



将来に残して欲しい公共交通 (N=1,369)



伊達市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

調査等により市民のニーズや地域公共交通の課題などを把握し、公共交通事業者を含む協議会において十分検討を行い素案を作成する。

[現段階での方向性]

現状・問題点

人口減少・少子高齢化

学校の統廃合・閉校

事業者の運転手不足・経営難

路線バス利用者の減少

広域交通の脆弱化

愛のリタクシーの低迷傾向

民間無料送迎バスの運行

課題

多種多様な既存移動手段の精査

行政負担の効率化

郊外部(大滝区含む)の移送支援策の検討

広域交通の支援体制の確保

利便増進策の検討

新たな制度の活用

新技術の導入検討

方向性(素案)

以下の項目について検討を進める。

路線バスの再構築

・既存バス路線の見直し

輸送手段の総動員

- ・移動手段の効率化による事業費削減
- ・愛のリタクシーの見直し(ライドシェアとの関係)
- ・タクシーの活用方策
- ・スクールバス(福祉バス)の活用
- ・民間無料送迎バスの活用
- ・大滝区の通院支援事業の買物等への拡張

まちづくりとの連携

・交通結節点機能の強化(JRとバスのダイヤ見直し等)

利用促進策の強化

- ・MaaSの検討・推進
- ・利用者助成の見直し(タクシー助成等、免許返納補助)
- ・バスマップ・使い方・総合時刻表

●事業実施の適切性

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、当初予定していたよりも事業の実施時期は遅れているが、予定した事業は全て年度内に実施する予定である。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は計画どおり適切に実施されているものと考えられる。
- ・今後、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。